

当初の構想は、週末の息抜きに野遊びができる土地を手に入れ、小さな作業小屋もつくって外を眺めながらお茶を楽しむことができればという程度のことだったのだが。どこでどう魔が差したのか。いつのまにか最後の蓄えを使い果たしてまっとうな住宅を建ててしまった。

そうならなかったら週末だけでももったいない。できるだけ長く竹山に居たいと言う気持ちが大きくなっていたわけだ。実際問題として、厳寒期などは週末に訪れても除雪にかかる時間はけっこうなもので、また、冷え切った部屋が暖かくなるのを待つだけで貴重な一日が過ぎてしまう。そして、ようやく落ち着いたと思ったらもう帰り支度をしなければならぬ。

確かに竹山のこの土地は、ちょっと野遊びで訪れるというのではなく、しっかりと腰をすえて日々の風景に目を向ける余裕がないと味わえない魅力があるのは事実だ。

できるだけ竹山に滞在する時間を長くしたくて、竹山オフィスの日というのを勝手に決めることにした。そうすると出張に向くにしても、S市の自宅より高速道路や空港へのアクセスが便利で合理的でもあった。出張の帰りもまちなかのマンションに戻るより、静かで清涼な空気と暗くなりかけた空に木々の黒いシルエツトが浮かび上がる景色が出迎えてくれるほうが疲れが癒えた。ただ、良いこともあればそうでないこともある。

竹山にはラフで自由な服装でいきたいのだが、その足で出張となるとそれなりの服装を持参しなければならぬ。竹山にお気に入りのジャケットを置いておくことにしたら、今度はS市に居るときにそのジャケットがないので慌てることになる。それに着替えの問題もある。

妻は食材の問題に頭を悩ませていた。食べるだけのこちらにはわからないが、その時の滞在日数に合わせて食べられる食材をキープし、自宅のマンションの冷蔵庫の管理もするのは相当苦労したようだ。フードロスに敏感であればなおさらである。

いわゆる二地域居住の部類に入るのであるがどうも違うようだ。夏の間はこちらで、冬になればあちらでというようなスパンで滞在できれば違うのかも知れないが、一週間の間であちらとこちらというのでは、あまりに慌ただしすぎる。それに三、四日の出張が加われば短期三地域居住の状態になってしまう。その合間に竹山でしか味わえない生活をと欲を出そうものなら忙しいことこのうえない。何か田舎暮らし的なことをしたいと思って竹山に居るわけではないが、時間に追われると、ついあれこれしちゃう。

ゆったりとした時間を楽しもうと思っていたのが、かえってあわただしくしてしまっている。完全に目的としたこととやっていることが逆転してしまっている。

そう気づいたときに訪れたのは三十五年経営して来た会社を後人に譲るという事業だった。

